

平成29年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

都道府県名	福岡県		市町村類型	I - 3		指定団体等の指定状況		区分		平成29年度(千円)		平成28年度(千円)		区分		平成29年度(千円・%)		平成28年度(千円・%)																																																																																																																																																
						財政健全化等	×	歳入総額	17,653,555	17,855,682	実質収支比率	0.3	0.8																																																																																																																																																					
市町村名	中間市		地方交付税種地	2-4		財源超過	×	歳出総額	17,610,714	17,772,603	経常収支比率	98.5	99.4																																																																																																																																																					
						首都	×	歳入歳出差引	42,841	83,079	(※1)	(103.9)	(104.7)																																																																																																																																																					
人口	27年国調(人)	41,796	産業構造(※5)			近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	15,935	5,700	標準財政規模	9,577,551	9,587,674																																																																																																																																																					
	22年国調(人)	44,210				中部	×	実質収支	26,906	77,379	財政力指数	0.44	0.43																																																																																																																																																					
	増減率(%)	-5.5				過疎	×	単年度収支	-50,473	50,424	公債費負担比率	16.4	16.3																																																																																																																																																					
住民基本台帳人口(※7)	30.01.01(人)	42,443	第1次	27年国調	152	135	低開発	×	積立金	5,000	5,000	健全化判断比率	-	-																																																																																																																																																				
	うち日本人(人)	42,233		22年国調	0.9	0.8	指数表選定	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																				
	29.01.01(人)	42,884	第2次	5,151	5,340	積立金取崩し額	380,000	869,000	連結実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																							
	うち日本人(人)	42,683		31.0	31.4	実質単年度収支	-425,473	-813,576	実質公債費比率	14.6	14.3																																																																																																																																																							
	増減率(%)	-1.0	第3次	11,292	11,517	基準財政収入額	3,594,246	3,635,955	将来負担比率	70.1	74.0																																																																																																																																																							
	うち日本人(%)	-1.1		68.0	67.8	基準財政需要額	8,152,936	8,188,646	資金不足比率(※4)	-	-																																																																																																																																																							
面積(km ²)	15.96				標準税収入額等	4,526,937	4,567,188																																																																																																																																																											
人口密度(人/km ²)	2,619				経常経費充当一般財源等	9,539,323	9,549,530																																																																																																																																																											
世帯数(世帯)	17,414				歳入一般財源等	11,626,439	11,744,615																																																																																																																																																											
職員の状況(※8)																																																																																																																																																																		
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	12,791,985	13,516,960																																																																																																																																																							
	市区町村長	1	8,880		一般職員	302	944,354	3,127	うち公的資金	9,165,114	9,209,226																																																																																																																																																							
	副市区町村長	1	7,240		うち消防職員	51	156,468	3,068	債務負担行為額(支出予定額)	672,501	206,028																																																																																																																																																							
	教育長	1	6,460		うち技能労務職員	9	31,284	3,476	収益事業収入	30,000	35,000																																																																																																																																																							
	議会議長	1	4,230		教育公務員	3	12,639	4,213	土地開発基金現在高	-	-																																																																																																																																																							
	議会副議長	1	3,810		臨時職員	-	-	-	財政調整基金	727,800	1,102,800																																																																																																																																																							
	議会議員	17	3,550		合計	305	956,993	3,138	積立金現在高	215,000	214,000																																																																																																																																																							
						ラスパイレシ指数			101.2	減債基金	215,000	214,000																																																																																																																																																						
								その他特定目的基金	1,175,629	1,210,929																																																																																																																																																								
<table border="0"> <tr> <td>一般会計等の一覧 項番</td> <td>会計名</td> <td>事業会計の一覧 項番</td> <td>会計名</td> <td>公営企業(法通)の一覧 項番</td> <td>会計名</td> <td>公営企業(法非通)の一覧 項番</td> <td>会計名</td> <td>関係する一部事務組合等一覧 項番</td> <td>組合等名</td> <td>地方公社・第三セクター等一覧 項番</td> <td>団体名</td> <td>(※3)</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>一般会計</td> <td>(5)</td> <td>特別会計国民健康保険事業</td> <td>(8)</td> <td>水道事業会計</td> <td>(10)</td> <td>公共下水道事業特別会計</td> <td>(11)</td> <td>福岡県中間市外二ヶ町山田川水利組合(一般会計)</td> <td>(21)</td> <td>中間市文化振興財団</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>公共用地先行取得特別会計</td> <td>(6)</td> <td>介護保険事業特別会計</td> <td>(9)</td> <td>病院事業会計</td> <td></td> <td></td> <td>(12)</td> <td>堀川水利組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>住宅新築資金等特別会計</td> <td>(7)</td> <td>後期高齢者医療特別会計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(13)</td> <td>福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>地域下水道事業特別会計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(14)</td> <td>福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(15)</td> <td>福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(16)</td> <td>中間市行橋市競艇組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(17)</td> <td>中間市行橋市競艇組合(特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(18)</td> <td>遠賀・中間地域広域行政事務組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(19)</td> <td>遠賀・中間地域広域行政事務組合(公共用地先行取得事業特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(20)</td> <td>福岡県自治振興組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																				一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法通)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非通)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)	(1)	一般会計	(5)	特別会計国民健康保険事業	(8)	水道事業会計	(10)	公共下水道事業特別会計	(11)	福岡県中間市外二ヶ町山田川水利組合(一般会計)	(21)	中間市文化振興財団		(2)	公共用地先行取得特別会計	(6)	介護保険事業特別会計	(9)	病院事業会計			(12)	堀川水利組合(一般会計)				(3)	住宅新築資金等特別会計	(7)	後期高齢者医療特別会計					(13)	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)				(4)	地域下水道事業特別会計							(14)	福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)												(15)	福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)												(16)	中間市行橋市競艇組合(一般会計)												(17)	中間市行橋市競艇組合(特別会計)												(18)	遠賀・中間地域広域行政事務組合(一般会計)												(19)	遠賀・中間地域広域行政事務組合(公共用地先行取得事業特別会計)												(20)	福岡県自治振興組合(一般会計)			
一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法通)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非通)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)																																																																																																																																																						
(1)	一般会計	(5)	特別会計国民健康保険事業	(8)	水道事業会計	(10)	公共下水道事業特別会計	(11)	福岡県中間市外二ヶ町山田川水利組合(一般会計)	(21)	中間市文化振興財団																																																																																																																																																							
(2)	公共用地先行取得特別会計	(6)	介護保険事業特別会計	(9)	病院事業会計			(12)	堀川水利組合(一般会計)																																																																																																																																																									
(3)	住宅新築資金等特別会計	(7)	後期高齢者医療特別会計					(13)	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)																																																																																																																																																									
(4)	地域下水道事業特別会計							(14)	福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)																																																																																																																																																									
								(15)	福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)																																																																																																																																																									
								(16)	中間市行橋市競艇組合(一般会計)																																																																																																																																																									
								(17)	中間市行橋市競艇組合(特別会計)																																																																																																																																																									
								(18)	遠賀・中間地域広域行政事務組合(一般会計)																																																																																																																																																									
								(19)	遠賀・中間地域広域行政事務組合(公共用地先行取得事業特別会計)																																																																																																																																																									
								(20)	福岡県自治振興組合(一般会計)																																																																																																																																																									

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。

※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

※7: 人口については、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※8: 職員の状況については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	4,004,156	22.7	3,701,318	40.3	普通税	3,701,318	92.4	34,763
地方譲与税	111,694	0.6	111,694	1.2	法定普通税	3,701,318	92.4	34,763
利子割交付金	6,875	0.0	6,875	0.1	市町村民税	1,769,756	44.2	34,763
配当割交付金	17,737	0.1	17,737	0.2	個人均等割	66,636	1.7	-
株式等譲渡所得割交付金	18,711	0.1	18,711	0.2	所得割	1,436,746	35.9	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	73,809	1.8	-
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	192,565	4.8	34,763
地方消費税交付金	670,552	3.8	670,552	7.3	固定資産税	1,519,789	38.0	-
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	1,487,208	37.1	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	105,462	2.6	-
自動車取得税交付金	40,987	0.2	40,987	0.4	市町村たばこ税	306,311	7.6	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	釧産税	-	-	-
地方特交付金	20,911	0.1	20,911	0.2	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	5,294,222	30.0	4,552,258	49.6	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	4,552,258	25.8	4,552,258	49.6	目的税	302,838	7.6	-
特別交付税	741,964	4.2	-	-	法定目的税	302,838	7.6	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	入湯税	-	-	-
(一般財源計)	10,185,845	57.7	9,141,043	99.5	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	9,998	0.1	9,998	0.1	都市計画税	302,838	7.6	-
分担金・負担金	127,652	0.7	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	206,902	1.2	23,914	0.3	法定外目的税	-	-	-
手数料	23,416	0.1	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	3,674,498	20.8	-	-	合計	4,004,156	100.0	34,763
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	1,121,202	6.4	-	-				
財産収入	28,591	0.2	3,762	0.0				
寄附金	350,100	2.0	-	-				
繰入金	440,000	2.5	-	-				
繰越金	83,079	0.5	-	-				
諸収入	276,416	1.6	4,308	0.0				
地方債	1,125,856	6.4	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	498,356	2.8	-	-				
歳入合計	17,653,555	100.0	9,183,025	100.0				

区分	平成29年度	平成28年度
徴収率(現・計)	98.9	96.2
(%)	98.7	95.1
市町村民税	98.7	96.1
純固定資産税	99.0	95.9

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	2,931,963	実質収支	-1,013,928
下水道	647,000	再差引収支	-1,127,522
病院	190,180	加入世帯数(世帯)	6,991
上水道	5,437	被保険者数(人)	11,035
工業用水道	-	被保険者	81
工業用水道	-	1人当り	144
国民健康保険	525,262	保険税(料)収入額	347
その他	1,564,084	保険給付費	-

(注釈)

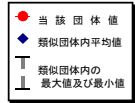
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	166,660	0.9	-	166,579	
総務費	2,082,794	11.8	199,524	1,718,556	
民生費	8,566,125	48.6	8,077	3,931,779	
衛生費	1,287,319	7.3	-	1,224,952	
労働費	7,633	0.0	-	7,633	
農林水産業費	71,329	0.4	9,832	54,621	
商工費	238,464	1.4	98,488	97,414	
土木費	1,506,891	8.6	648,416	943,258	
消防費	495,055	2.8	25,593	472,229	
教育費	1,235,090	7.0	153,465	1,057,587	
災害復旧費	497	0.0	-	97	
公債費	1,952,857	11.1	-	1,908,893	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	17,610,714	100.0	1,143,395	11,583,598	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	10,476,459	59.5	6,110,039	6,078,259	62.8
人件費	2,928,842	16.6	2,657,290	2,625,510	27.1
うち職員給	1,747,436	9.9	1,583,471	-	-
扶助費	5,594,760	31.8	1,543,856	1,543,856	15.9
公債費	1,952,857	11.1	1,908,893	1,908,893	19.7
元利償還金	1,952,211	11.1	1,908,247	1,908,247	19.7
内 うち元金	1,850,831	10.5	1,811,378	1,811,378	18.7
訳 うち利子	101,380	0.6	96,869	96,869	1.0
一時借入金利子	646	0.0	646	646	0.0
その他の経費	5,990,363	34.0	5,223,158	3,461,064	35.7
物件費	1,675,837	9.5	1,456,876	277,997	2.9
維持補修費	101,077	0.6	62,217	62,217	0.6
補助費等	1,416,173	8.0	1,340,978	885,894	9.2
うち一部事務組合負担金	651,990	3.7	651,990	621,705	6.4
繰出金	2,736,346	15.5	2,332,986	2,234,956	23.1
積立金	30,700	0.2	30,101	-	-
投資・出資金・貸付金	30,230	0.2	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	1,143,892	6.5	250,401	-	-
うち人件費	92,746	0.5	92,746	-	-
普通建設事業費	1,143,395	6.5	250,304	-	-
うち補助	689,847	3.9	88,061	-	-
うち単独	438,790	2.5	162,185	-	-
災害復旧事業費	497	0.0	97	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	17,610,714	100.0	11,583,598	-	-

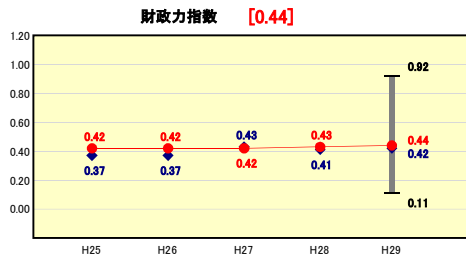
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	42,443	人(H30.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	42,233	人(H30.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	15.96	km ²	実質公債費比率	14.6	%
歳入総額	17,653,555	千円	将来負担比率	70.1	%
歳出総額	17,610,714	千円	市町村類型	H25 I-3 H26 I-3 H27 I-3	
実質収支	26,906	千円	(年度毎)	H28 I-3 H29 I-3	
標準財政規模	9,577,551	千円			
地方債現在高	12,791,985	千円			



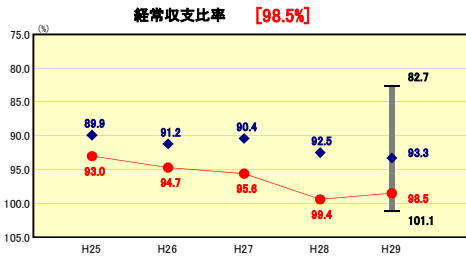
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表示しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表示しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※「定員管理の状況」及び「給与水準(国との比較)」は地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、平成29年度の数値については、前年度の数値を引用している。
 ※人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力



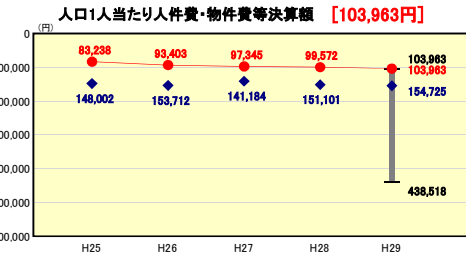
財政力指数の分析欄
 旧産炭地域である本市は基幹となる産業がないため、平成29年度は増収となったものの法人税収については乏しい状況が続いている。また、個人住民税についても、近年は景気回復傾向にあるとはいわれるものの所得増にはなっておらず、徴収率上昇により補っているところである。依然として財政基盤は脆弱であり、財政力指数は全国平均及び県平均を下回る状況となっている。今後は、さらなる市税の徴収率向上や使用料の見直し、債権管理の強化等を通じて自主財源の確保に努めることとする。

財政構造の弾力性



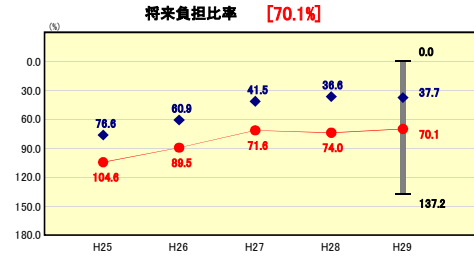
経常収支比率の分析欄
 歳出面においては高齢化に伴い社会保障関連経費が増額となったが、歳入面においては市税、普通交付税等が増額となり、経常一般財源等が増加したことにより経常収支比率が0.9ポイント改善し98.5%となった。しかしながら、経常収支比率は全国平均及び県平均を大きく上回っており、今後も高齢化に伴う社会保障費や特別会計への繰入金等の回避できない経費の増加が見込まれる。内部経費の見直しによる経常経費の削減を継続するとともに、繰入金増加抑制のためにも公共下水道事業も含めた計画的な地方債の発行に努め、経常収支比率の改善に努めることとする。

人件費・物件費等の状況



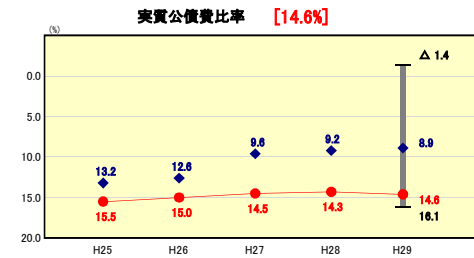
人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 行財政集中改革プラン(推進期間:H17~H24)に基づき職員数の削減及び内部経費の見直し等に努めた結果、人口1人当たり人件費・物件費等決算額は、類似団体の平均を大きく下回る状況となっている。今後は、平成26年度に策定した行政経営プランに基づき職員給与のさらなる適正化及び経費削減の取組みを継続していくこととする。

将来負担の状況



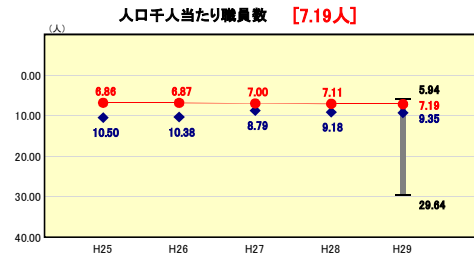
将来負担比率の分析欄
 公共下水道事業における起債残高の増加(対前年度比223百万円増)に伴い、公営企業債等繰入見込額のみ増加(998百万円増)となったが、普通会計地方債現在高(725百万円減)をはじめとする他の項目は減少に転じ、将来負担比率は3.9ポイント改善した。他団体との比較においても、将来負担比率は類似団体の平均を大きく上回っていることから、普通建設事業費の抑制による地方債残高の削減や計画的な下水道事業実施による繰出金の削減等を通じて将来負担比率の改善に努めることとする。

公債費負担の状況



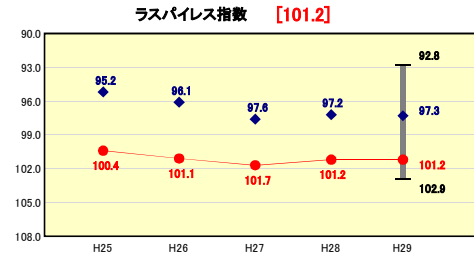
実質公債費比率の分析欄
 公共下水道事業繰入金をはじめとする公営企業債等繰入額の減額(対前年度比26百万円減)や元利償還金の減額(13百万円減)により、単年度の実質公債費比率は前年度から0.7ポイント改善している。しかしながら、平成26年度単年度数値は13.6%だったことから、3か年平均の実質公債費比率は、0.3ポイントの悪化となった。実質公債費比率が類似団体の平均を上回る水準で推移しているのは、他団体と比べて立ち遅れている下水道整備に伴う公共下水道事業への繰出金が多額となっていることから、今後は計画的な下水道事業実施による繰出金の削減に努めることとする。

定員管理の状況



人口千人当たり職員数の分析欄
 平成29年度は平成28年度数値を引用。
 (職員数:平成28年度数値、人口:平成30年1月1日現在の人口)
 なお、平成29年度類似団体関係数値(平均値、最大値及び最小値、順位)は、平成29年度の選定団体によるもの。

給与水準(国との比較)



ラスパイレス指数の分析欄
 平成29年度は平成28年度数値を引用。
 なお、平成29年度類似団体関係数値(平均値、最大値及び最小値、順位)は、平成29年度の選定団体によるもの。

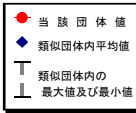
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

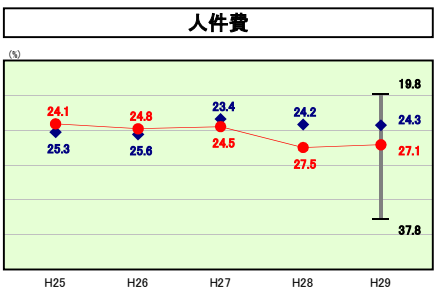
福岡県中間市

経常収支比率の分析

人口	42,443	人(H30.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	42,233	人(H30.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	15.96	km ²	実収公債費比率	14.6	%
歳入総額	17,653,555	千円	将来負担比率	70.1	%
歳出総額	17,610,714	千円	市町村類型	H25 I-3 H26 I-3 H27 I-3	
実収収支	26,906	千円	(年度毎)	H28 I-3 H29 I-3	
標準財政規模	9,577,551	千円			
地方債現在高	12,791,985	千円			

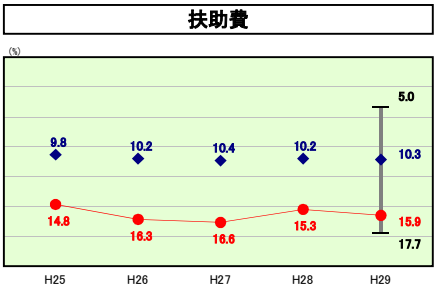


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



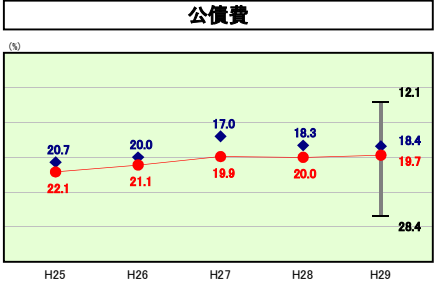
類似団体内順位 30/36 **全国平均** 25.6 **福岡県平均** 25.3

人件費の分析欄
 平成29年度の人件費に係る経常収支比率は、平成28年度に非常勤職員等の任用形態見直しにより報酬等の性質別区分を人件費に変更したことにより大きく悪化したものと同水準となった。他団体との比較においても、類似団体の平均を上回る状況が続いていることから、今後もさらなる事務事業の見直し等を行い、事務効率化を進め適正な定員管理を行うとともに、各種手当の見直し等を行い給与の適正化に努めていく。



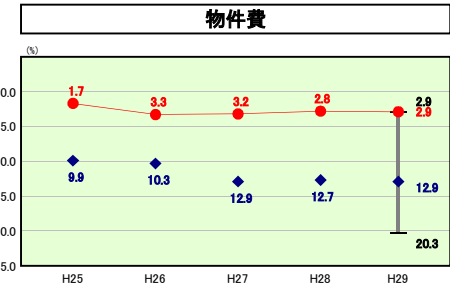
類似団体内順位 33/36 **全国平均** 12.4 **福岡県平均** 13.8

扶助費の分析欄
 平成29年度の扶助費に係る経常収支比率は、私立幼稚園施設給付費及び障害者福祉関連扶助費増により前年度から0.6ポイント悪化した。他団体との比較においても、本市は高齢化が著しく(H29高齢化率:36.2%)、生活保護受給者も多数である(H29保護率:31.82%)ことから、扶助費に多額の一般財源を要しており、経常収支比率は類似団体の平均を大きく上回る水準で推移している。今後は、生活保護の適正受給及び予防医療の推進による医療費の削減により社会保障費の自然増に歯止めをかけ、財政負担の軽減に努めることとする。



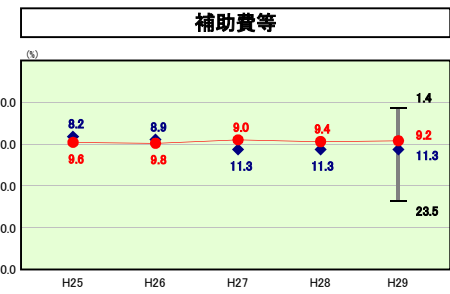
類似団体内順位 26/36 **全国平均** 16.9 **福岡県平均** 18.6

公債費の分析欄
 近年、財政状況に伴う普通建設事業の抑制や、バブル崩壊以降に積極的に実施した大型建設事業に係る起債の償還が終了しつつあることにより、普通会計地方債残高は順調に減少している。公債費に係る経常収支比率も低下しているものの、依然として類似団体の平均を上回る状況となっている。今後は、普通建設事業費の抑制や償還条件の見直しにより公債費負担の適正化に努めることとする。



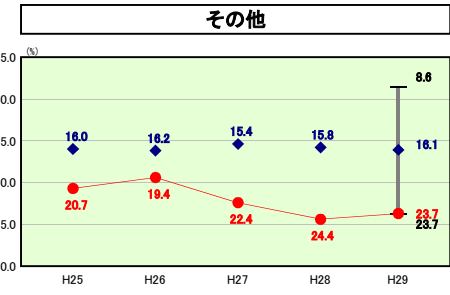
類似団体内順位 1/36 **全国平均** 14.5 **福岡県平均** 13.7

物件費の分析欄
 行財政集中改革プラン(推進期間:H17~H24)に基づき事務事業の見直し等の内部経費削減に努めた結果、物件費に係る経常収支比率は、類似団体の平均を大きく下回る状況となっている。今後も、平成26年度に策定した行政経営プランに基づき歳出抑制の取組みを継続していくこととする。



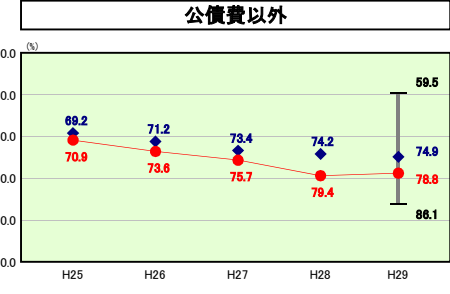
類似団体内順位 11/36 **全国平均** 10.1 **福岡県平均** 10.0

補助費等の分析欄
 し尿、ごみ処理等に係る一部事務組合負担金が減額となったことから経常収支比率は前年度から0.2ポイント改善している。今後も、一部事務組合の事業内容精査や関係団体への補助金見直し等によりさらなる歳出抑制に努めることとする。



類似団体内順位 36/36 **全国平均** 13.3 **福岡県平均** 12.7

その他の分析欄
 急激な高齢化による社会保障関連経費の繰出金の増加や、他団体と比べて立ち遅れている下水道整備の推進による公共下水道事業特別会計への繰出金の増加が、本市の経常収支比率悪化の大きな要因である。平成29年度は基準外の特別会計国民健康保険事業への繰出金の皆減等によりその他の経常収支比率が0.7ポイント改善した。今後は、社会保障費の増加の抑制及び計画的な下水道事業の実施により繰出金の削減に努めることとする。



類似団体内順位 24/36 **全国平均** 75.9 **福岡県平均** 75.5

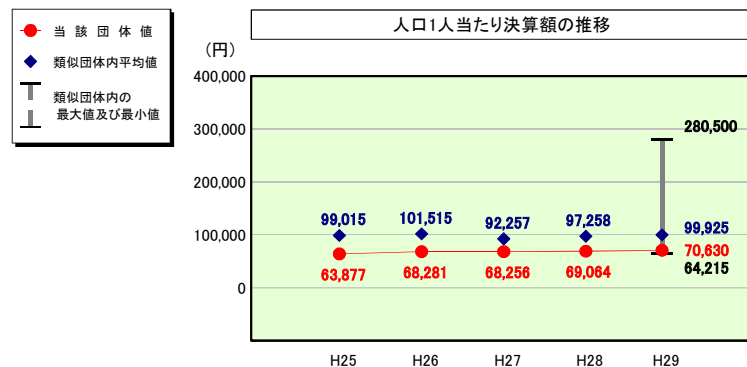
公債費以外の分析欄
 本市は県下でも高齢化率が高いことや(H29高齢化率:36.2%)、障害者福祉関連経費の増加等により扶助費に多額の一般財源を要している。また、他団体と比べて立ち遅れている下水道の整備を進めており公共下水道事業特別会計への繰出金が多額(H29決算額:647百万円)であることから、公債費以外に係る経常収支比率は、類似団体の平均を上回っている。今後は、社会保障費の増加の抑制及び計画的な下水道事業の実施により歳出抑制に努めることとする。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

福岡県中間市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	2,928,842	69,006	84,559	▲ 18.4
賃金(物件費)	91,902	2,165	6,564	▲ 67.0
一部事務組合負担金(補助費等)	86,051	2,027	9,731	▲ 79.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,056	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	184,209	4,340	3,766	15.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	92,746	2,185	1,689	29.4
▲退職金	▲ 386,015	▲ 9,095	▲ 7,440	22.2
合計	2,997,735	70,630	99,925	▲ 29.3

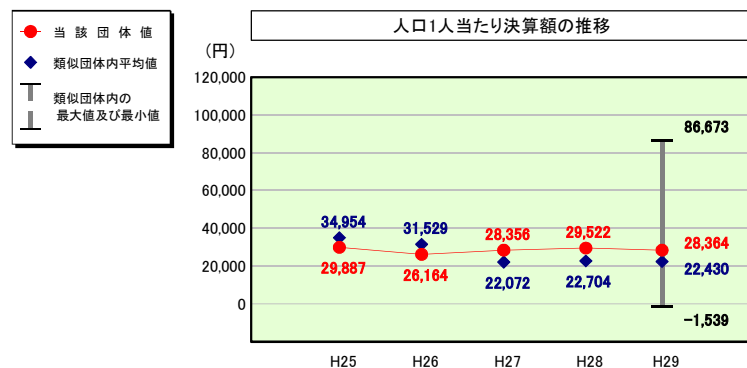
参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.19	9.35	▲ 2.16
ラスパイレス指数	101.2	97.3	3.9

(注) 人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(注) 参考については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

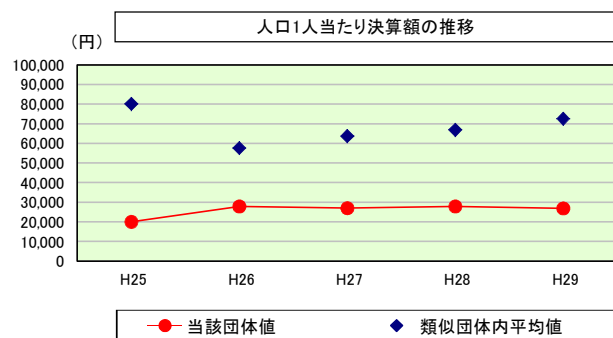


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	1,952,211	45,996	59,906	▲ 23.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	8	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	704,128	16,590	16,952	▲ 2.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	91,559	2,157	2,747	▲ 21.5
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	414	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲ 318,849	▲ 7,512	▲ 5,842	28.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 1,225,202	▲ 28,867	▲ 51,758	▲ 44.2
合計	1,203,847	28,364	22,430	26.5

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

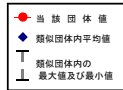
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H25	889,115	20,059	▲ 2.7	80,149	28.2	▲ 30.9
うち単独分	220,057	4,965	▲ 58.4	38,398	39.3	▲ 97.7
H26	1,219,089	27,906	39.1	57,697	▲ 28.0	67.1
うち単独分	817,645	18,717	277.0	26,743	▲ 30.4	307.4
H27	1,170,403	27,041	▲ 3.1	63,727	10.5	▲ 13.6
うち単独分	534,293	12,344	▲ 34.0	34,577	29.3	▲ 63.3
H28	1,196,186	27,894	3.2	66,954	5.1	▲ 1.9
うち単独分	665,292	15,514	25.7	37,305	7.9	▲ 17.8
H29	1,143,395	26,940	▲ 3.4	72,656	8.5	▲ 11.9
うち単独分	438,790	10,338	▲ 33.4	36,448	▲ 2.3	▲ 31.1
過去5年間平均	1,123,638	25,968	6.6	68,237	4.9	1.7
うち単独分	535,215	12,376	35.4	34,694	8.8	26.6

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

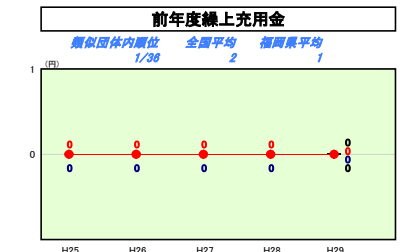
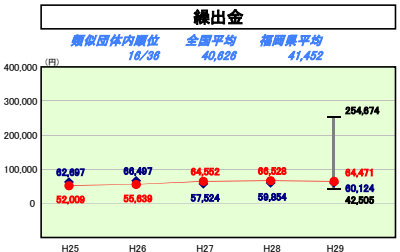
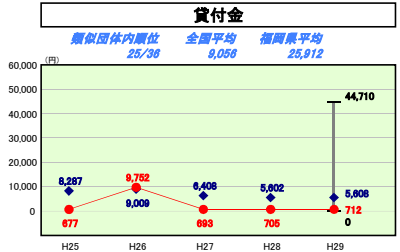
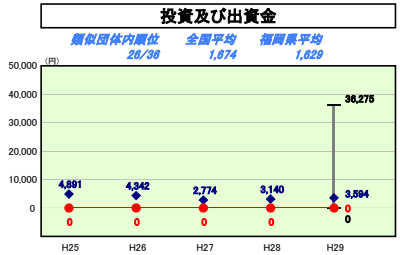
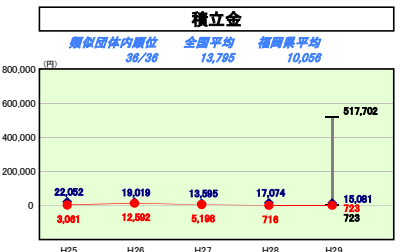
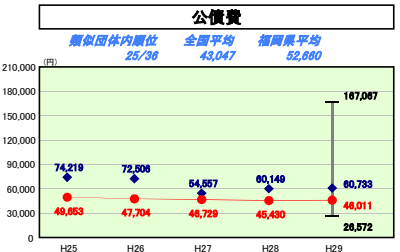
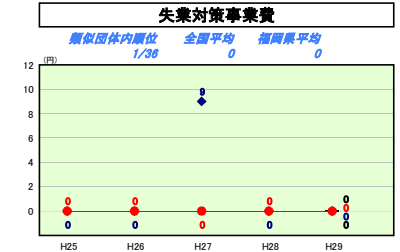
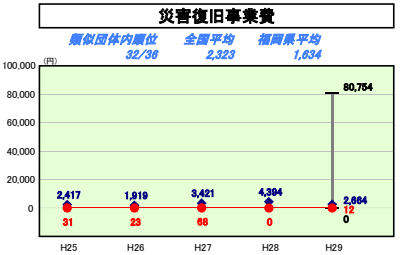
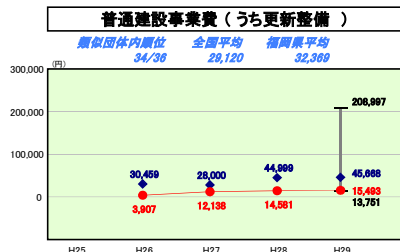
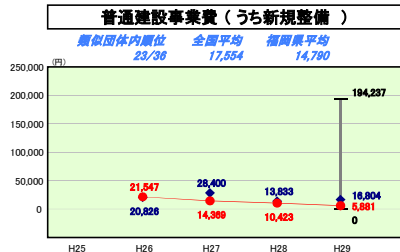
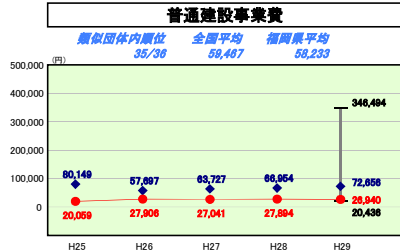
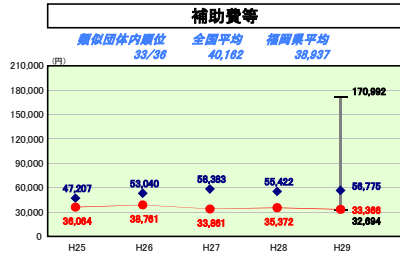
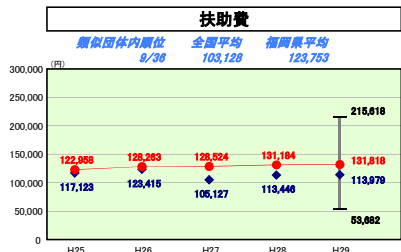
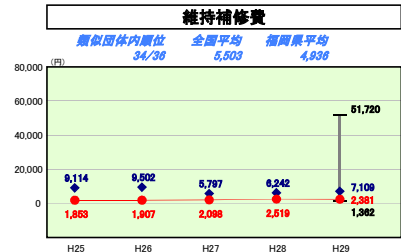
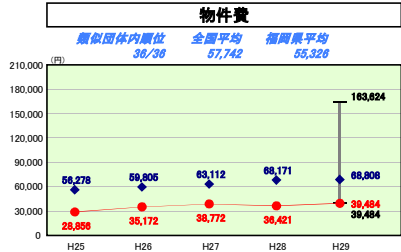
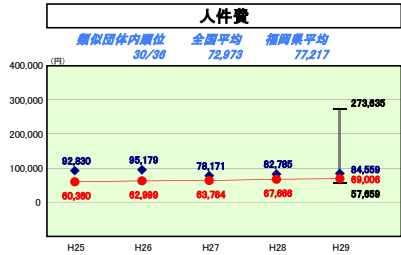
平成29年度

福岡県中間市

人口	42,443 人(830.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	42,233 人(830.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	15.96 km ²	実質公債費比率	14.6 %
農産物産出総額	17,655,555 千円	将来負担比率	70.1 %
農産物販売総額	17,610,714 千円		
実質収支	26,906 千円	市町村類型	H25 I-3 H26 I-3 H27 I-3
標準財政規模	9,577,551 千円	(年度毎)	H28 I-3 H29 I-3
地方債現在高	12,791,985 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

本市は、人口規模と比較して面積が狭小であり財政規模が小さいことから、性質別分類においても、多くの経費について住民一人当たり支出額は類似団体平均を下回っている。その中で、扶助費及び繰出金については類似団体平均を上回る支出額となっているが、これは、本市は高齢化が著しく(H29高齢化率:36.2%)、生活保護者も多数である(H29保護率:31.82%)ことから、生活保護費や国民健康保険事業への繰出金等の社会保障関連経費が多額となったことによるものである。今後は、生活保護の適正受給及び予防医療の推進による医療費の削減により社会保障費の自然増に歯止めをかけ、財政負担の軽減に努めることとする。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成29年度

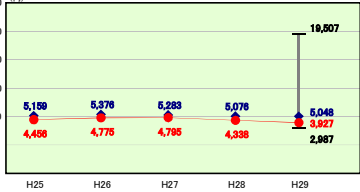
福岡県中間市

人口	42,443 人(830.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	42,233 人(830.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	15.96 km ²	実質公債費比率	14.6 %
農産物産出総額	17,655,555 千円	得率負担比率	70.1 %
実質収入	17,610,714 千円	市町村類型	H25 I-3 H26 I-3 H27 I-3
実質支出	26,906 千円	(年度毎)	H28 I-3 H29 I-3
標準財政規模	9,577,551 千円		
地方債現在高	12,791,985 千円		

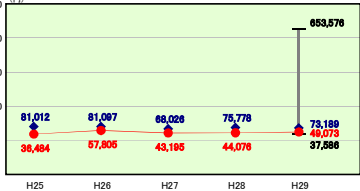


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

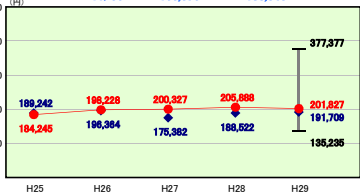
雑金費
 類似団体内順位 33/36 全国平均 2,690 福岡県平均 2,522



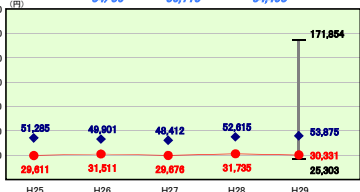
総務費
 類似団体内順位 32/36 全国平均 51,519 福岡県平均 43,545



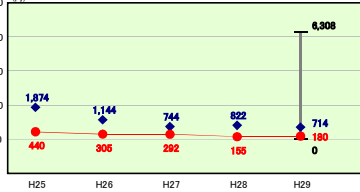
民生費
 類似団体内順位 11/36 全国平均 165,375 福岡県平均 183,343



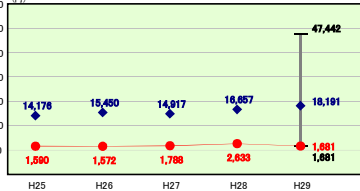
衛生費
 類似団体内順位 34/36 全国平均 36,113 福岡県平均 34,453



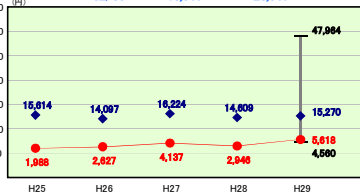
労働費
 類似団体内順位 25/36 全国平均 809 福岡県平均 382



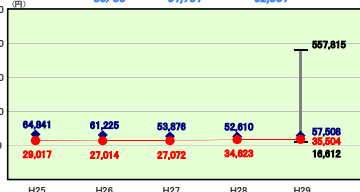
農林水産業費
 類似団体内順位 36/36 全国平均 11,178 福岡県平均 7,521



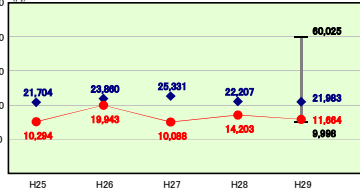
商工費
 類似団体内順位 32/36 全国平均 13,540 福岡県平均 28,640



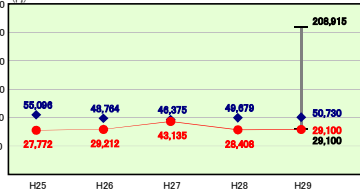
土木費
 類似団体内順位 30/36 全国平均 51,751 福岡県平均 52,001



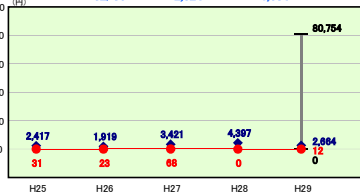
消防費
 類似団体内順位 35/36 全国平均 14,631 福岡県平均 13,219



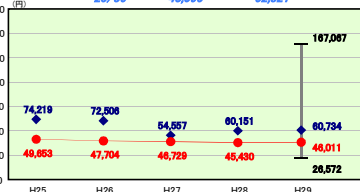
教育費
 類似団体内順位 36/36 全国平均 55,480 福岡県平均 67,824



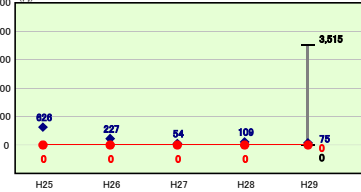
災害復旧費
 類似団体内順位 32/36 全国平均 2,324 福岡県平均 1,834



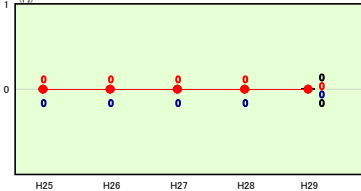
公債費
 類似団体内順位 25/36 全国平均 43,085 福岡県平均 52,821



諸支出金
 類似団体内順位 2/36 全国平均 989 福岡県平均 3,838



前年度繰上充用金
 類似団体内順位 1/36 全国平均 2 福岡県平均 1



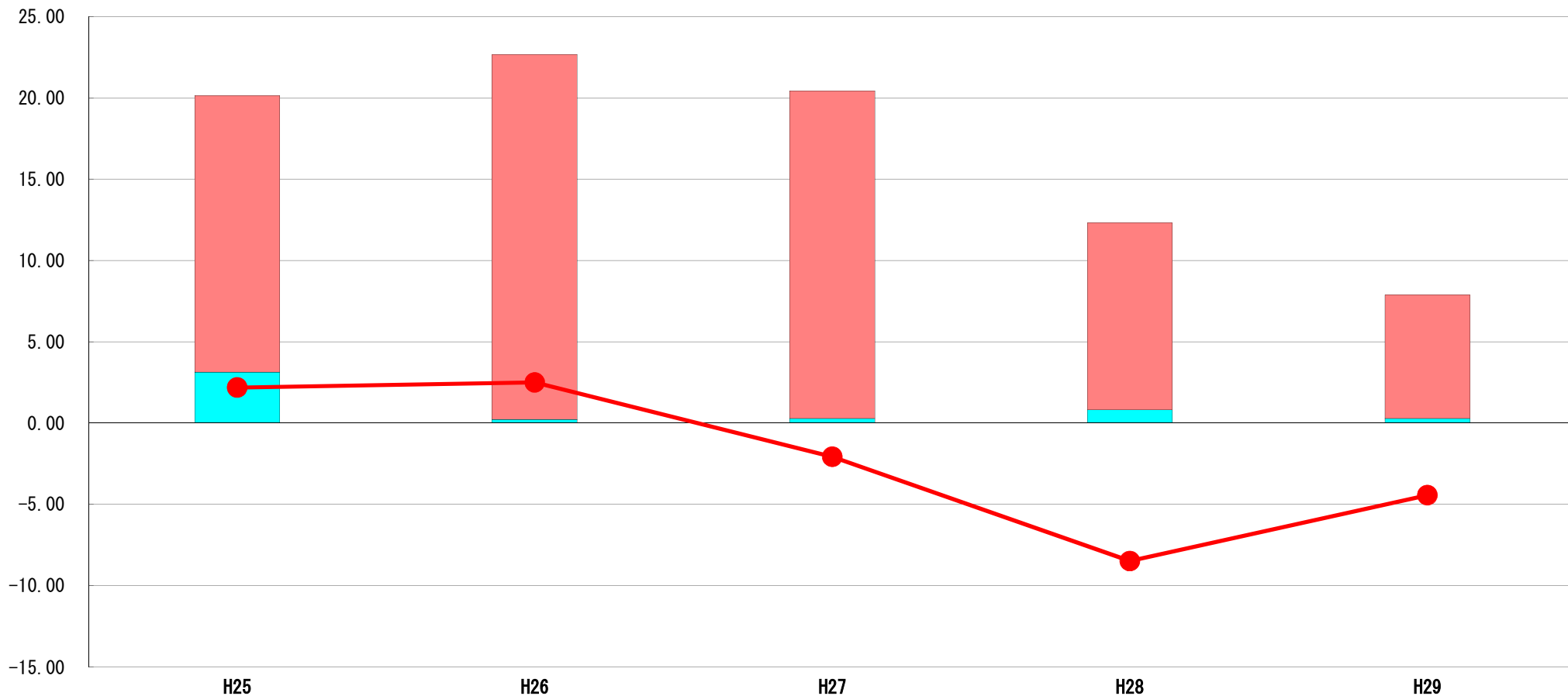
目的別歳出の分析
 本市は、人口規模と比較して面積が狭小であり財政規模が小さいことから、目的別分類においても、多くの経費について住民1人当たり支出額は類似団体平均を下回っている。その中で、民生費については類似団体平均を上回る支出額となっているが、これは、本市は高齢化が著しく(H29高齢化率:36.2%)、生活保護者も多数であること(H29保護率:31.82%)、社会保障関連経費に關する繰上金及び障害者福祉関連経費が多額となったことによるものである。
 今後は、ジェネリック医薬品の利用促進や特定健診の受診勧奨等の医療費の削減により社会保障関連経費の自然増に歯止めをかけ、財政負担の軽減に努めることとする。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成29年度

福岡県中間市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H25	H26	H27	H28	H29
 財政調整基金残高		17.01	22.44	20.15	11.50	7.60
 実質収支額		3.13	0.22	0.28	0.81	0.28
 実質単年度収支		2.18	2.50	▲ 2.07	▲ 8.49	▲ 4.44

分析欄

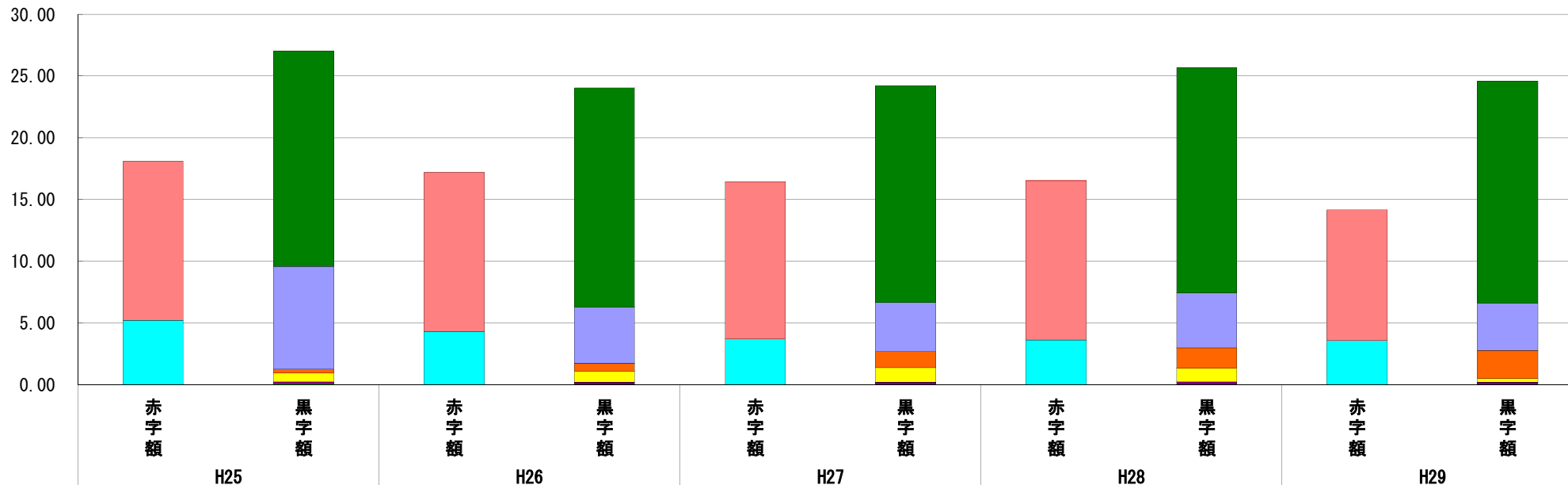
行財政集中改革プラン(推進期間:H17~H24)に基づき職員定数管理や内部経費の見直し等の歳出削減に努め、一定の成果があった。しかしながら、基幹産業がないことや高齢化が進んでいることによる市税収入の伸び悩み、一方で社会保障関連経費の増加により厳しい財政運営が続いている。平成28年度の普通交付税や地方消費税交付金などの一般財源の大幅な減額から平成29年度は以前の水準に戻ることはなく、ふるさと納税の大幅な増額があったものの、財政調整基金をさらに減少させ基金残額が728百万円程と少額である。実質単年度収支についても平成27年度から3年連続で赤字となっている。今後は、平成26年度に策定した行政経営プランに基づき歳出抑制及び財源確保の取組みを継続し、財政健全化に努めることとする。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成29年度

福岡県中間市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H25	H26	H27	H28	H29
特別会計国民健康保険事業		▲ 12.89	▲ 12.86	▲ 12.71	▲ 12.89	▲ 10.58
住宅新築資金等特別会計		▲ 5.20	▲ 4.33	▲ 3.73	▲ 3.63	▲ 3.59
水道事業会計		17.42	17.77	17.54	18.24	17.96
一般会計		8.32	4.54	4.00	4.42	3.85
介護保険事業特別会計		0.31	0.64	1.29	1.66	2.26
病院事業会計		0.72	0.88	1.18	1.11	0.31
後期高齢者医療特別会計		0.14	0.17	0.18	0.19	0.17
公共下水道事業特別会計		0.08	0.04	0.03	0.03	0.03
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.01	0.01	0.00	0.01	0.01

分析欄

一般会計及び水道事業会計においては黒字を確保しているものの（一般会計実質収支：369百万円、水道事業会計資金剰余額：1.721百万円）、特別会計国民健康保険事業及び住宅新築資金等特別会計においては赤字となっている（特別会計国民健康保険事業実質収支：△1.014百万円、住宅新築資金等特別会計実質収支：△344百万円）。各会計において赤字が生じた要因は、特別会計国民健康保険事業については高齢化の進行及び高度医療の普及により医療費が高騰していること、住宅新築資金等特別会計については貸付金の累積滞納額が多額となっていることが挙げられる。今後は、特別会計国民健康保険事業については、ジェネリック医薬品の利用促進や特定健診の受診勧奨等の医療費の削減及び国民健康保険税の収納率向上を図ることとする。また、住宅新築資金等特別会計については、収納強化を行い滞納額を着実に減らすよう努めることとする。

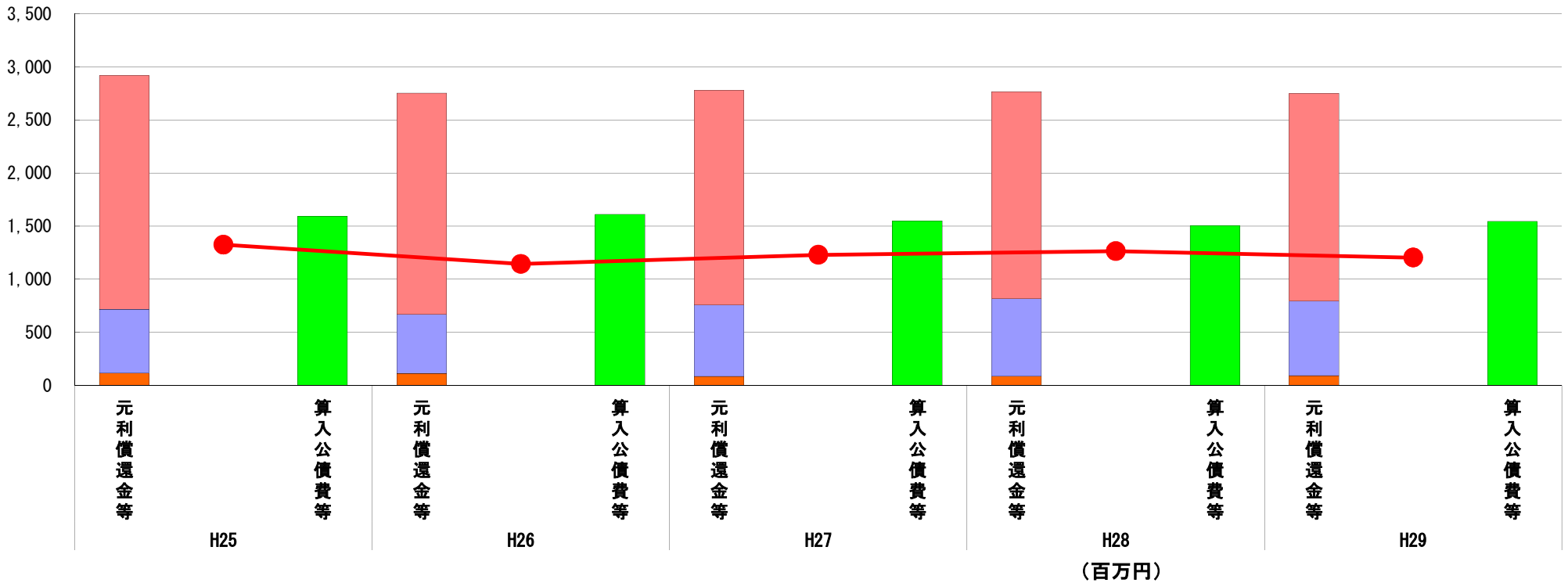
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

福岡県中間市

(百万円)



分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金		2,200	2,083	2,022	1,947	1,952
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		599	555	671	730	704
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		118	114	85	88	92
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	0	0	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		1,592	1,609	1,549	1,501	1,545
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,325	1,143	1,229	1,264	1,203

分析欄

近年、財政状況に伴う普通建設事業の抑制や、バブル崩壊以降に積極的に実施した大型建設事業に係る起債の償還が終了しつつあることにより元利償還金が減少傾向にある。(H25: 2,200百万円→H29: 1,952百万円)平成29年度の実質公債費比率は前年度から0.3ポイント悪化しているが、単年度の実質公債費比率は0.7ポイント改善している。しかしながら、他団体と比べて立ち遅れている下水道の整備に伴い公共下水道事業への繰出金が多額となっていることなどから、本市の実質公債費比率は類似団体の平均を上回る水準で推移している。今後は、老朽化する公共施設の建替え等が予想されるが、引き続き普通建設事業費の抑制及び計画的な下水道事業実施による繰出金の削減に努めることとする。

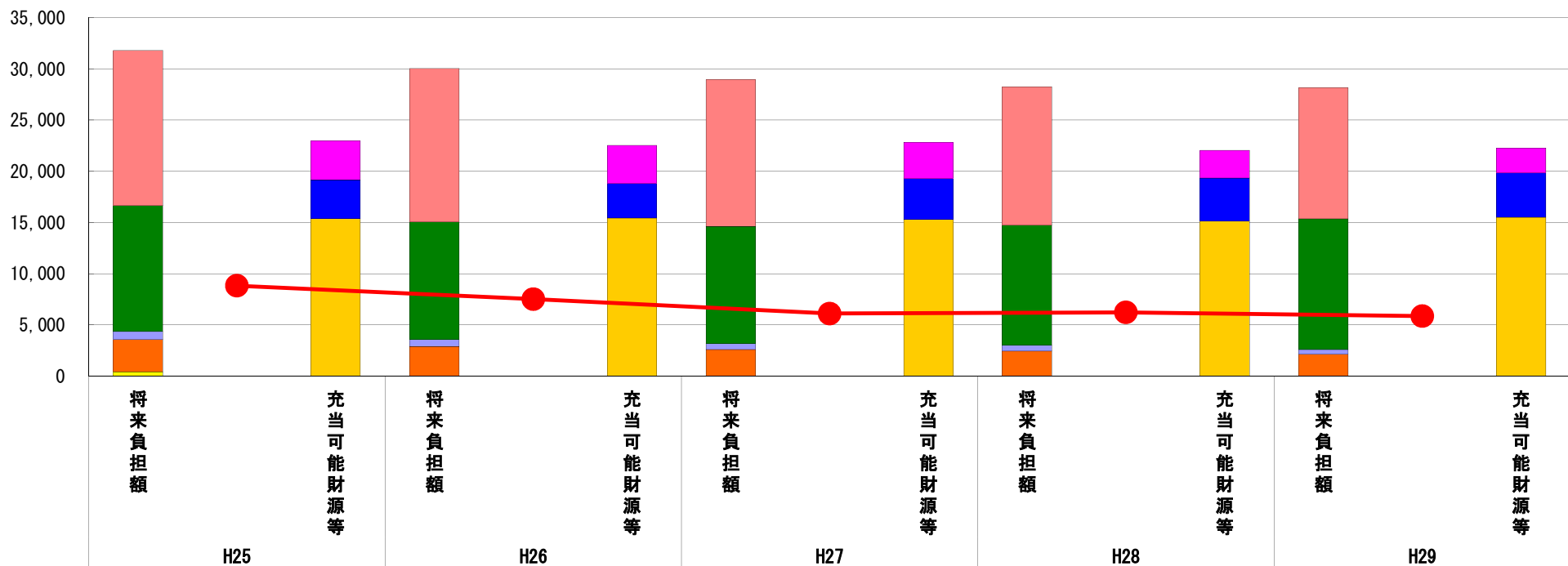
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

福岡県中間市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		15,140	14,948	14,323	13,517	12,792
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		12,294	11,510	11,400	11,759	12,757
	組合等負担等見込額		784	705	630	551	468
	退職手当負担見込額		3,155	2,866	2,577	2,434	2,121
	設立法人等の負債額等負担見込額		419	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,801	3,688	3,533	2,711	2,402
	充当可能特定歳入		3,767	3,421	4,008	4,178	4,380
	基準財政需要額算入見込額		15,397	15,418	15,294	15,155	15,497
(A) - (B)	将来負担比率の分子		8,827	7,502	6,096	6,216	5,858

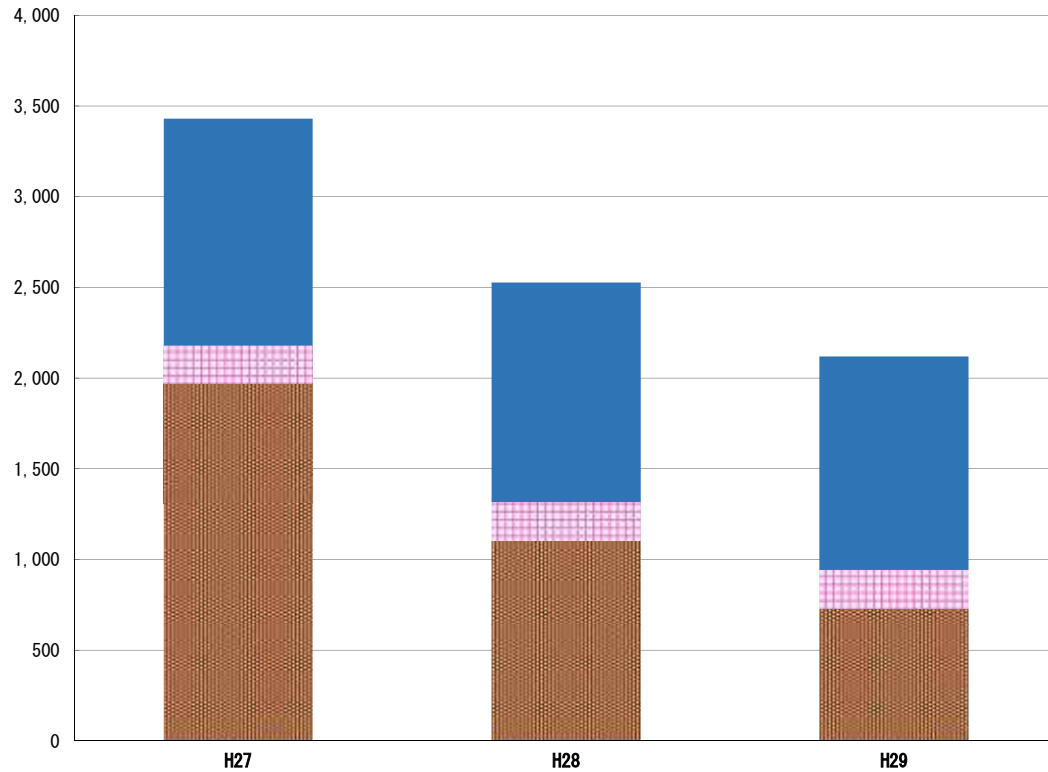
分析欄

普通会計地方債残高は年々着実に減少し(H28:13,517百万円→H29:12,792百万円)、平成29年度は公営住宅の賃借料等の増加(112百万円増)をはじめ充当可能財源等が増加したことにより、将来負担比率は前年度から3.9ポイント改善している。しかしながら、公共下水道事業推進に伴う公営企業債等繰入見込額の増加(H28:11,759百万円→H29:12,757百万円)は今後も続く見込みであり、他団体との比較においても本市の将来負担比率は類似団体の平均を大きく上回っていることから、普通建設事業費の抑制による地方債残高の削減や計画的な下水道事業実施による繰出金の削減等を通じて、将来負担比率の改善に努めることとする。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	H27	H28	H29
財政調整基金		1,967	1,103	728
減債基金		213	214	215
その他特定目的基金		1,250	1,211	1,176
かんがい揚水施設管理運営基金		614	615	616
子孫にのこすふるさとづくり基金		125	125	126
五楽及び虫生津工場排水施設管理運営基金		110	110	111
まなびの森基金		154	129	100
消防施設整備積立基金		77	78	79
基金残高合計		3,430	2,528	2,118

平成29年度

福岡県中間市

基金全体

(増減理由)

平成26年度までは6年連続で基金残高が増加していたが、平成28年度に普通交付税、地方消費税交付金、臨時財政対策債等の経常一般財源が大幅に減少したことにより、基金に頼らざるをえない厳しい財政状況が続いている。歳出面においても、人口減少に伴う歳出抑制効果は少なく、社会ニーズに応じた障害者福祉関連経費の増大、及び下水道整備事業の推進等の歳出金が増加しており、年々基金残高が減少している。

(今後の方針)

近年、増加する自然災害に備えることや、各公共施設の老朽化といった不安要素があるため基金残高を増加させたいものであるが、本市の財政構造からは安定的な財政運営が年々難しくなっている。今後は、平成26年度に策定した行政経営プランや、それに続く平成31年度からの新プランを基に、歳入歳出構成を変えるような新たな取組みを行い、基金依存体質からの脱却に努めることとする。

財政調整基金

(増減理由)

歳出面においては、社会ニーズに応じた障害者福祉関連経費の増大をはじめとする社会保障関連経費が増加している。また、歳入面においても、平成28年度に大幅に減少した普通交付税、地方消費税交付金等の経常一般財源の増加はなく、基金に頼らざるをえない厳しい財政運営となっており、平成29年度末基金残高は728百万円と極めて少額である。

(今後の方針)

歳出面、歳入面ともに、今後好転するような要因は見込めない。平成29年度にふるさと納税が大幅に増額した(H28:18百万円→H29:345百万円)が恒久財源とは言い難いことから、厳しい財政運営はこれからも続く。平成26年度に策定した行政経営プランに基づき、引き続き財政健全化に努めることは言うまでもなく、平成31年度からの新プランでは、歳入歳出構成を変えるような新たな取組みを行い、基金残高を減少させないように努めることとする。

減債基金

(増減理由)

近年、繰上償還等に伴う減債基金の取崩しはなく、毎年1百万円の積立を行っており、基金残高が増加している。

(今後の方針)

経済事情の変動等により財源が不足する場合等の不測の事態に備え、着実に積立を行い基金残高が増加するように努めることとする。

その他特定目的基金

(基金の用途)

本市の特定目的基金は普通会計に11基金あり、中でも、「都市計画事業等積立基金」及び「住宅基金」は、主に市営住宅の改善事業に活用し、下水道事業推進に伴う公共下水道事業特別会計への繰出金としても活用している。「子孫にのこすふるさとづくり基金」は、本市の将来のまちづくり基金は、本市の将来のまちづくりに寄与するような事業に、主に世界遺産の保全や観光振興、教育分野など幅広く活用している。

(増減理由)

平成29年度「福祉対策積立基金」については、想像を上回るスピードで上昇する社会保障関連経費に対応し特別会計国民健康保険事業や後期高齢者医療特別会計への繰出金に充当するために30百万円取り崩した。また、「まなびの森基金」については、小学生を対象にした放課後対策事業や市民会館の修繕料に活用するために、同じく30百万円取り崩した。

(今後の方針)

本市では、現在大規模な中鶴地区市営住宅建替事業が進行中であることから「住宅基金」を活用し、また、重要施策の1つである「観光都市なかまの構築」実現に向けて「子孫にのこすふるさとづくり基金」を活用する予定である。